



2013年7月16日
公益財団法人イオン環境財団

7/21(日)第1回「ミャンマー ヤンゴン植樹」を実施します 日本、ミャンマーのボランティア500人の方々と6,000本の木を植えます

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役、以下当財団）は7月21日（日）に、ミャンマー連邦共和国（以下 ミャンマー）ヤンゴン近郊のフージー湖において「ミャンマー ヤンゴン植樹」を実施します。

このたび植樹するフージー湖は、ヤンゴン市へ生活用水を供給する水源として利用されています。近年、湖周辺の森林が薪などの生活用の木材として伐採され、河川に流れ出る水の量を調整する森林の働きである水源涵養機能が低下しています。ヤンゴンに住む方々の生活を支えるフージー湖を自然資源として持続的に利用するため、周辺の自然を再生することが課題となっています。

当財団は、伐採された森を再生し水源涵養機能を取り戻すため、ミャンマー環境保全森林省とともに本年より3カ年計画で20,000本の植樹活動を実施します。1回目となる本年は、日本とミャンマーのボランティア500人の皆さまとともに地域に自生する木々約6,000本をフージー湖周辺に植えます。

当財団は本年、ミャンマーのほか、北海道むかわ町で植樹を実施しました。また、国内では千葉県浦安市、愛知県知多市、三重県紀北町、長崎県南島原市、宮崎県綾町、海外ではインドネシア、ベトナム、中国で植樹活動を実施する予定です。

当財団による植樹と、地域の皆さまとともに店舗の敷地内に植樹する「イオン ふるさとの森づくり」で植えた木々は、本年度累計1,000万本を迎えます。

イオンは、水と緑の地球を未来の子どもたちへ伝えるため、これからも木を植えてまいります。

記

実施日：7月21日（日）

場 所：ミャンマー連邦共和国ヤンゴン市外フージー湖畔

参加人数：500人（日本のボランティア250人、ミャンマーのボランティア250人）

植樹本数：6,000本

樹 種：チーク、タマリンド、モンキーポッド等地域に自生する樹種15種類

主 催：ミャンマー連邦共和国環境保全森林省、公益財団法人イオン環境財団

協 力：イオン株式会社、イオンフィナンシャルサービス株式会社、
イオンモール株式会社

主な出席者：ミャンマー連邦共和国環境保全森林省大臣 Win Tun 様

（予定） ヤンゴン管区大臣 Myint Swe 様

公益財団法人イオン環境財団理事長 岡田 卓也（イオン株式会社名誉会長相談役）

イオン株式会社取締役兼取締役会議長 林 直樹

イオンアセアン本社代表取締役社長 尾山 長久

以上

【ミャンマーでの取り組みについて】

- 2008年** ミャンマー中南部での大型サイクロン被害への緊急支援金、支援物資寄付
日本ミャンマー連邦共和国大使館へ緊急災害復興支援金1,000万円を、さらに被災地へ蚊帳などの支援物資を届けました。
「ペットボトルキャップ回収キャンペーン」によるワクチン接種支援開始
ペットボトルキャップをリサイクル資源として換金し、ミャンマーの子どもたちのワクチン接種を支援しています。
- 2012年** **ミャンマー学校建設支援募金開始**
3カ年計画の初年となる2012年は、お客さま募金にイオン1%クラブが同額を拠出し、合計4,378万円を公益財団法人日本ユニセフ協会に寄付しました。
- 2013年** **ミャンマー学校建設支援事業による1校目の小学校が開校**
3月に1校目となる「イオン ガンゴー スクール」の開校式を実施しました。開校式には、子どもたちと保護者の皆さまに加え、日本から100名のお客さまにも参加していただき、新しい校舎の完成を祝い、交流を深めました。



「ティーンエイジ・アンバサダー事業」実施

日本、ミャンマー、ベトナムの3カ国の高校生による国際交流プログラムを実施します。

イオンの奨学金「イオンスカラシップ」を開始

ミャンマーの大学で勉学に励む学生への支援を本年より開始します。